

コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

ヤマアジサイ (*Hydrangea serrata* (Thunb.) Ser. var. *serrata*)

荒瀬輝夫 (信州大学農学部) tearase@shinshu-u.ac.jp



ヤマアジサイは、アジサイ科 (旧分類ではユキノシタ科) の落葉低木で、本州 (太平洋側) から四国、九州、朝鮮半島南部に分布する野生のアジサイ類の1種である。アジサイの名前は、「あじ」(あず: 集まる) + 「さ」(真: 藍と同義) で、青い花がかたまって咲く様子から名づけられたという⁵⁾。

アジサイ属では、種子のできる本来の花 (雄蕊と雌蕊のある小さな両性花) が花序の中央にあり、それを取り巻くように大きな装飾花がある。装飾花ががく片であることは広く知られているが、ごく小さいながら両性花には花弁がある。園芸種には、両性花がすべて装飾花に変化した「手まり花」の品種のほか、がく片の枚数や形状の変化した品種もある。

園芸種の代表的系統であるガクアジサイとは異なり、ヤマアジサイでは枝が細く繊細な雰囲気を持ち、花色や葉形が多様である²⁾。川島 (2010)³⁾ はヤマアジサイを5つの集団に区分し、そのうち本州には東日本型 (白花) と西日本型 (有色花) があり、これら2集団の分布境界が鈴鹿山脈の尾根にあることを記載している。系統解析においても、ヤマアジサイが近縁種に比べて遺伝的多様性が高く、東部グループ (東海地方以東) と西部グループ (近畿地方以西) の2つの系統に大別されることが明らかにされている⁶⁾。さらに、地域性や品種の変異が非常に大きく、現在、名前のつけられた品種は700~800に及ぶ²⁾。

植物分類学の最新の見解では、ヤマアジサイはエゾアジサイなど5つの変種を含む母種 (*H. serrata*) の基準変種とされる⁷⁾。4月8日の灌仏会 (花祭り) に使う甘茶 (アマチャ) も、葉に甘味のある変種の1つである。変種エゾアジサイは北海道から東北地方、本州日本海側、九州に分布しており、全体が壮大で花色が青いとされる⁴⁾。しかし、エゾアジサイとヤマアジサイの区別は明確ではないよう²⁾、両者の接するところでは中間型があることが記載されている⁴⁾。著者の経験でも、現在の職場 (長野県南信地方) に赴任した年、「ヤマアジサイの花は真っ白」という強い印象を持ったものの、紫色を帯びた花色のヤマアジサイを北信地方で見て、かなり混乱した記憶がある。

花色については、色素やその量の化学的分析も重要であるが、色を3次元の座標値として測る方法もあり、色差計を使って野外でも手軽に計測できるという長所がある。どの色

相でも色差を均等に表せる色座標系としては「L*a*b*表色系」が最も一般的で、L*軸は明度 (最小値0で黒、最大値90で白)、a*軸は赤~緑 (正值で赤、負値で緑)、b*軸は黄~青 (正值で黄、負値で青) を表す。

著者らがヤマアジサイの花色を長野県内10地点で調査した結果¹⁾、地点ごとの平均値は、L*値: 54.9~78.9、a*値: -7.1~+1.8、b*値: -22.6~+10.3であった。b*値のみ、淡~濃青紫色と白色とにやや二極化しており、それを除くと地点間の変異は小さかった。エゾアジサイの分布域と接する県北部を中心に中間的な花色が存在しており、葉のサイズも緯度が高くなるほど大きくなる関係が認められたため、エゾアジサイとの遺伝子浸透の可能性が考えられる。

また、挿し木繁殖の予備実験 (著者、未発表) では、活着率に産地による差がみられたものの、挿し木2年目で開花する個体も確認されており、増殖は比較的容易と思われる。

以上のように、ヤマアジサイでは地域的な花色の違いや中間型の存在があり、遺伝的にも多様な系統に分かれるので、導入する際、種子や挿し木の採集地に注意が必要であろう。

引用文献

- 1) 荒瀬輝夫・増田 遥 (2019) 長野県に自生するヤマアジサイの装飾花と葉の地理的変異. 信州大学農学部 AFC 報告, 17: 45-52
- 2) 川原田邦彦・三上常夫・若林芳樹 (2010) 日本のアジサイ図鑑. 柏書房, 東京. 204 pp.
- 3) 川島榮生 (2010) アジサイ百科 *Hydrangea Kawashima Index*. Aboc, 鎌倉. 623 pp.
- 4) 北村四郎・村田 源 (1979) 原色日本植物図鑑・木本編 II. 保育社, 大阪. pp. 111-121
- 5) 長沢 武 (2012) 野外植物民俗事苑. ほおずき書籍, 長野. pp. 20-21, 27-28
- 6) Uemachi, T., Mizuhara, Y., Deguchi, K., Shinjo, Y., Kajino, E. and Ohba, H. (2014) Phylogenetic relationship of *Hydrangea macrophylla* (Thunb.) Ser. and *H. serrata* (Thunb.) Ser. evaluated using RAPD markers and plastid DNA sequences. *Journal of the Japanese Society for Horticultural Science*, 83(2): 163-171
- 7) 米倉浩二 (邑田 仁監修) (2012) 日本維管束植物目録. 北隆館, 東京. 379 pp.



木島平村（長野県北部）のヤマアジサイ（？）
花は濃紫色で、花だけ見るとエゾアジサイのよう。



山形村（長野県中部）のヤマアジサイ
花は淡紫色で、エゾアジサイとの中間的な花色。



南箕輪村（長野県南部）のヤマアジサイ（1）
信州大学農学部構内。花色は白。



南箕輪村（長野県南部）のヤマアジサイ（2）
がく片が5枚に変化した個体（通常4枚）。



南箕輪村（長野県南部）のヤマアジサイ（3）
花後、白い装飾花が赤みを帯びる個体もある。
（育成された「ベニガク」という品種もある。）



根羽村（長野県最南部）のヤマアジサイ
花色は白で、葉はかなり小型である。